

コーディネーター・パネリストのプロフィール

★**苦瀬博仁**(くせひろひと) 東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科教授

流通システム、都市物流システム、ロジスティクス・システム、都市計画、交通計画等が専門。物流施設の立地と配置計画、荷捌き施設計画の研究、情報システムによる商物分離の可能性と輸配送の合理化の分析など。東京大学大学院客員教授(兼任)。第6回世界交通学会論文賞「横浜市賞」受賞。著書に、「明日の都市交通政策」編著、成文堂、2003、「都市交通ー都市交通計画・都市物流計画ー」、交通工学研究会編、2002、「付加価値創造のロジスティクス」、税務経理協会、1999。

★**松本忠雄**(まつもとただお) 花王株式会社執行役員 ロジスティクス部門統括
多摩大学大学院客員教授

ロジスティクスの先進企業として、物流効率化への積極的な取り組みを行っている。SCMへの取り組み、経営改革のためのロジスティクス戦略などの講座、セミナー、シンポジウムなどの講師・パネリストとして活躍。また、国土交通省「スーパー中核港湾選定委員会」委員など多数。

★**市川隆一**(いちかわりゅういち) 佐川急便株式会社営業本部
ロジスティクス戦略営業部部長

専門分野は、サプライチェーン・ロジスティクス、小売・消費者流通、大規模商業施設流通等。発表論文等に「ダイレクトマーケティングにおけるロジスティクス・マネジメントーロジスティクス思考の顧客中心戦略ー」「Direct Marketing Review」vol.1.2002、「流通システムの変容と消費者起点物流に関する一考察」「MHジャーナル」No.237・2004年4月など。

★**大島弘明**(おおしまひろあき) 株式会社日通総合研究所
経済研究部物流政策研究グループ担当部長

物流に係わる交通政策の専門家として調査研究のほかに、ロジスティクスセミナー、物流大学校講座等の講師として活躍。発表論文等に、「物流を考慮した地区管理計画について」土木学会、1997、「物流事業者による共同配送の現状と課題」、季刊輸送展望、2000夏号、「物流業界再編の背景と今後の展開」、季刊輸送展望、1999春号など。

用語についての解説

※1 ロジスティクス

原材料の調達から、半製品、製品まで、すべての物資の移動およびその取扱いを企業経営全体の立場から戦略的に検討すること。元々は軍事用語であり、戦場の後方にあつて、食料・車馬・軍需品の供給・補充・輸送にあたることを意味したが、近年ではビジネス用語としても用いられるようになった。

※2 物流チャネル

流通チャネルとは、生産者から消費者へ商品が流れていく道筋を示したものであり、このうち商品の流れそのものを示すものを物流チャネルと呼ぶ(一方、商品の受発注の流れを「商流チャネル」と呼ぶ)。業種、施設、地域といった見方があり、例えば、商品の発着する施設に着目した物流チャネルは、「工場→倉庫→店舗→住宅」と

表現できる。

※3 インターモーダル

「複合輸送の」「複合運送の」という意味の言葉であり、「inter」(相互)と「mode」(輸送形態)を組合せた言葉である。例えば、インターモーダル・トランスポート(複合一貫輸送)というように用いられる。ここでは自動車、鉄道、船舶など、異なる輸送機関をつなぐ拠点のことを「インターモーダル拠点」と定義している。

※4 クラスター型

クラスター(cluster)とは、ぶどうなどの果実の房のことを言う。都市計画では建物群などの配置形態の1つとして用い、房状にいくつかの単位で建物群が配置されていることを意味する。ここでは点在する物流団地や工業団地を道路ネットワーク等で結び、一つの広域物流拠点と捉えたものを、「クラスター型広域物流拠点」と定義している。

協議会の活動について、 もっと知りたい方は・・・

協議会では、ホームページを開設しています。

協議会のホームページ
<http://www.tokyo-pt.jp/>

以下の資料がご覧いただけます。
(※一部の資料はダウンロードもできます。)

これまでのニュースレターや
パンフレット

これまでの協議会シンポジウム
について

これまでの調査の概要について

これまでに公表した冊子

記者発表資料

「東京都市圏交通計画協議会」とは・・・

わたしたち「東京都市圏交通計画協議会」は、日本ではじめて複数の都
県市関係機関がお互いに協力・調整しあって、広域的な交通問題に関
する調査・研究を行う組織として、1968年(昭和43年)に発足し(当時は
東京都市群交通計画委員会)、35年以上にわたって活動しています。

編集後記

今回のシンポジウム特集はいかがでしたか？シンポジウ
ムも大変多くの方にご参加していただき、ありがとうございました。
今後もシンポジウムを開催していく予定ですので、ふる
ってご参加ください。

■問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局	茨城県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	
企画部 広域計画課 TEL 048-600-1330 FAX 048-600-1373	土木部 都市局都市計画課 TEL 029-301-4588 FAX 029-301-4599	県土整備部 都市計画課 TEL 048-830-5343 FAX 048-830-4881	県土整備部 県土整備政策課 TEL 043-223-3164 FAX 043-227-0139	都市整備局 都市基盤部交通企画課 TEL 03-5388-3283 FAX 03-5388-1354	県土整備部 都市計画課 TEL 045-210-6182 FAX 045-210-8879	
横浜市	川崎市	千葉市	さいたま市	都市再生機構	日本道路公団	首都高速道路公団
都市計画局 都市企画部企画調査課 TEL 045-671-3800 FAX 045-663-3415	まちづくり局計画部 交通計画課 TEL 044-200-2034 FAX 044-200-3967	都市局都市部 都市計画課 TEL 043-245-5306 FAX 043-245-5627	都市局 都市計画部都市施設課 TEL 048-829-1398 FAX 048-829-1979	業務企画部 都市再生プロデュースチーム TEL 045-650-0467 FAX 045-650-0366	東京建設局 建設第一部企画調査課 TEL 03-5418-2027 FAX 03-5418-2050	計画部 調査課 TEL 03-3539-9408 FAX 03-3502-2412

★ご意見・ご感想をおよせください。

東京都市圏交通計画協議会 ホームページアドレス <http://www.tokyo-pt.jp/>

100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

PT
Tokyo

発行：東京都市圏交通計画協議会



Vol. 17 2004年12月

東京としけん交通だより

都市圏

～これからのくらしと交通を考える～

特集

“東京都市圏の物流の現状と課題”

「東京都市圏交通計画協議会 第7回シンポジウム」特集号

今回は、10月8日(金)に開催いたしました、「東京都市圏交通計画協議会 第7回シンポジウム」の特集です。

シンポジウムでは、「東京都市圏の物流の現状と課題」をテーマに、各方面で物流に取り組まれている方をお呼びし、物流の現状と課題について活発に討議していただきました。

東京都市圏交通計画協議会では、今回のシンポジウムでのご議論、ご討議を踏まえつつ、今後さらなる検討を進めていく予定です。

なお、これまでのシンポジウムの概要については、協議会のホームページ

<http://www.tokyo-pt.jp/>

に掲載していますので、あわせてご覧下さい。

とき 平成16年10月8日(金)13:00～16:30

ところ abc会館ホール(港区芝公園)

プログラム

- 協議会からの報告
「平成15年度東京都市圏物資流動調査のねらいと調査結果の概要」
～新宅 幸夫(国土交通省関東地方整備局企画部広域計画課長)
- 基調講演 「都市における物流の現状と解決の方向性」
～苦瀬 博仁(東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科教授)
- パネルディスカッション 「都市における物流の現状と課題」



基調講演：「都市における物流の現状と解決の方向性」



東京海洋大学海洋工学部
流通情報工学科教授
苦瀬 博仁氏

都市と物流の歴史

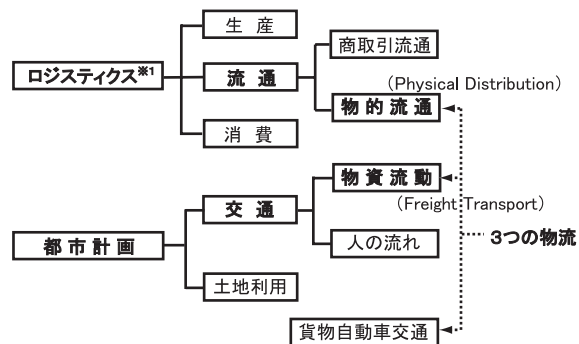
都市や経済の発展には物流が必要不可欠であり、歴史的に見ても都市は物流を考慮して計画されてきました。

昔は船と鉄道の結節点が整備され、うまくリンクする時代がありましたが、現在は面的に動ける自動車が普及し、色々とところに物流施設が立地しています。

3つの「物流」

生産から消費までをつなぐ流通には「商取引流通」と「物的流通(物流)」があります。

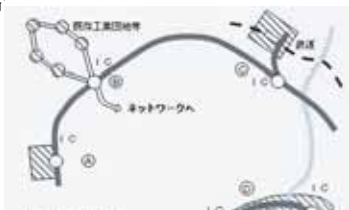
物流には上記の「物的流通」と輸送を主体とした「物資流動」があります。最近では「貨物自動車交通」を物流という見方もあり、少々混乱があるかと思います。



都市物流計画の今後の方向性

拠点整備の方向性

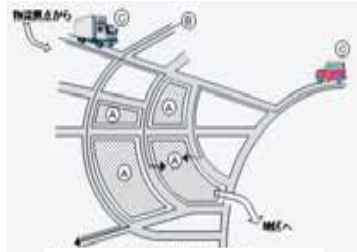
- ・拠点整備のみではなく、ソフト対策やインターモーダル※³による各種交通機関の連携
- ・交通渋滞や過剰投資を削減のための施設発生集中量による土地利用と交通容量の整合



- ① I C 周辺型物流拠点
- ② クラスター型※⁴広域物流拠点
- ③ インターモーダル※³拠点
- ④ 湾岸部の広域拠点の誘導

ネットワーク整備の方向性

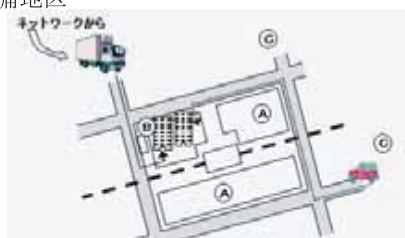
- ・居住環境と物流効率のバランスを考慮した物流ネットワーク
- ・物流ネットワークに囲まれた地区の居住環境を保護する物流トラフィックセル



- ① 物流トラフィックセルの最適規模と最適配置
- ② トラックルートの設定
- ③ 人（乗用車）と物（貨物車）の、空間的・時間的な分離

地区物流の方向性

- ・中心市街地活性化のための地区物流交通の円滑化
- ・人と物の流れを分離して、環境を良くする物流整備地区



- ① 物流整備地区の設定方法と導入方法（地区計画、駐車場、用途地域）
- ② 路上・路外荷さばき施設などのハード施策（建築計画、駐車場整備）
- ③ 共同配送、進入規制などのソフト施策（共同配送、駐車規制）

※印については、裏表紙に解説をつけています。

パネルディスカッション「都市における物流の現状と課題」

●コーディネーター

苦瀬博仁氏（東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科教授）



松本 忠雄 氏
花王株式会社
ロジスティクス部門総括
多摩大学大学院客員教授

「物流の効率化のためには、協業、協働を」

小売業ごとに商品をまとめて運ぶ現在の配送方法から、複数の小売業の商品をエリアごとにまとめて運ぶ方法に変えることができれば、より物流を効率化できます。そのためには、小売業が卸売業やメーカーの流通センターを活用すること、またメーカーも店舗への配送を卸売業に委託するなど、協業、協働することが重要です。

「大きなトラックで効率的に運びたい」

現在の都市内配送の主流は4トントラックですが、もっと大きなサイズのトラックを利用して、まとめて運ぶことにより、台数を減らして効率的に運びたいと考えています。まとめて運ぶと効率が良いだけではなく、トラックの台数が減るため環境にもやさしいという利点もあります。

しかし、道路や店舗の構造には制約があることや、一般的に大型トラックは迷惑というイメージがあるようで、大型トラックの利用は難しいというのが現状です。

「情報・データをもっとオープンに」

今回の物流調査結果や日々の道路情報など、様々な情報・データをもっとオープンにすれば、配送時間の予測や物流を考慮したまちづくりなど、いろいろな検討のベースデータとして利用できると思っています。



市川 隆一 氏
佐川急便株式会社
営業本部ロジスティクス戦略
営業部部長

「都市における共生のための費用は、各プレイヤーが分担していかなければならない」

都市には、「行政」「施設オーナー・管理会社」「入居テナント」「物流事業者」という立場の異なるプレイヤーがおります。

都市における共生を考えるときには、「物流効率」「都市交通・環境」「街・施設の付加価値」「利便性」といったものが課題であり、課題に対応するための費用を各プレイヤーで分担していかなければなりません。

「物の流れを考慮した物流対策を」

建物内に荷さばきのための駐車スペースを用意しても、建物内での物の流れを考慮しないと、例えば、物流量に比べてエレベーター数が足りず、エレベーター待ちによって搬送に時間がかかってしまう可能性があります。その結果、駐車スペースに貨物車が入り切れず、建物の外にまで貨物車が駐車してしまうことも考えられます。

例えば、大規模な民間施設を新設する際には物の流れを考慮した設計を義務付ける、などの対策が考えられるのではないかと思います。

「都市内の物流効率化は、多くのメニューの組合せで」

都市内の物流効率化対策には、ハード対策とソフト対策、短中期的対策と長期的対策があります。これらの対策メニューの何か1つだけで十分な効果を得ることは難しく、多くを組合せて実施していくことが大切ではないかと思います。

「地区物流対策にはメリハリをつけたルールづくりを」

地区物流対策としてのルールは、単に規制するだけではなく、物流活動を支えるための取組みも併せて実施することが大切だと思います。例えば、金沢市ではメインの通りでは一切駐停車を許さないが、裏通りでは貨物の積降ろしに限り駐停車を許すなど、メリハリをつけて物流対策をおこなっています。

「交通問題や環境問題等への対応には、行政の指導が不可欠」

貨物車も含めた自動車交通の集中による交通混雑や地球環境問題といった社会的な問題への対応や、公平な競争の下での物流活動には、行政の指導が不可欠だと思います。



大島 弘明 氏
株式会社日通総合研究所
経済研究部物流政策研究
グループ担当部長